

精華町地球温暖化対策地域協議会 議事要旨

■日時・場所

○平成 28 年 1 月 29 日（水） 13 時 30 分～15 時 30 分

○精華町役場 5 階 501・502 会議室

■内 容

1. 開会（事務局）

○資料の確認

2. 協議事項（事務局）

○公共交通利用転換事業計画の策定について（資料①②）

- ・資料②（資料①の概要版）を使い公共交通利用転換事業計画の構想の内容について説明。
- ・前回の協議会后に意見照会を行った際に出た意見と、その対応結果を説明。（参考資料）
- ・盛岡委員（六甲産業）から現在実証実験中のカーシェアリングの概要について説明。

（会長）

COP21 を意識しているのならば、記載したほうが良いのではないか。

また、けいはんな新線の延伸については、京都府全体として考えるネットワークとの整合を図っておくべきではないか。

（事務局）

COP21 については、資料①の 1 ページ「計画策定の意義・背景」で触れている。

学研都市として、けいはんな新線の延伸は実現したいと考えているが、簡単ではない。まずは祝園駅から学研奈良登美ヶ丘駅を中量輸送手段で結ぶことが重要だと思っている。

（委員）

京都府としては、けいはんな新線は 10 年間で繋いでほしいと、近畿地方交通審議会のアンケート等で回答している。ただ、繋ぐのは、鉄道・軌道を含めての話であるので、まずは中量輸送手段の導入かと理解している。

（委員）

計画の考え方、位置づけについては、COP21 等、国際的な枠組みを意識しているので問題ないと思う。

温暖化対策法では 2 種類の計画を作ることとなっており、一つは事務事業編で、自治体が自らの事務事業で排出する二酸化炭素の削減計画となっており、全自治体に策定が義務付けられている。もう一つは区域事業編で、政令市などある程度の大きな都市のみに策定が義務付けられている。この計画は区域事業編としての位置づけを持つが、その中で運輸部門を策定するとなると、運輸部門が必要だという説明が不十分だと感じる。

二酸化炭素の削減目標は、京都府の条例で目標設定しているので、それとの整合も図

ったほうがいい。

(会長)

京都府の内部で調整し、必要な項目は充実させてほしい。

(委員)

高齢化で交通弱者が増加してもカーシェアリングへの利用には繋がらないので、書き方を意識したほうがいい。

(委員)

現在の実証実験では、企業の利用が多い。将来的に自動運転が実現した場合の受け皿とするため、下地作りとして実証実験を進めている。高齢化等で運転できない方が増えても、移動できるような手段になれば良いと思う。

(会長)

概要版(資料②)の現状・問題で、精華町着の出勤目的では自動車が多いとあるが、自由・業務目的も自動車が多い。その対策としてカーシェアやモビリティ・マネジメントに繋がるので、このグラフの情報はそちらでも使った方が良い。

(委員)

事業所が多いと夜間の就業等もあり、事業所ごとに送迎バスを運行することになる。送迎バスへの対策もモビリティ・マネジメントの一環かと思う。事業者の送迎バスを無くすように駅前広場等に制限を課すべきだと思う。

精華町の地域公共交通会議にも参加しているが、一言で高齢者と言っても色々な移動目的を持った高齢者がいる。住民と従業員が、どこをターゲットポイントとして移動しているかを意識した交通体系を考えた方が良い。

(委員)

企業が立地する際に送迎バスは極力行わないようお願いしている。それにより路線バスの利用者が増え、バスが増便されれば、住民も便利になるので、良いサイクルになるよう努めている。

(会長)

交通体系については、交通網形成計画の関係かと思うので、また計画については検討いただけたらと思う。

駅前広場の混雑状況についての資料はあるが、バスの遅延時間もデータ化できたらわかりやすくなると思う。

(委員)

連節バスの経路上の道路の混雑状況もデータ化して数値的に問題があるなら講じていただきたい。信号の状態や慢性的に詰まりやすい箇所等ポイントとなる所をすべて洗い出した上で解消していただきたい。

(会長)

計画で記載する内容では無いので、運行にかかる課題としてデータを共有して一緒に取り組んでいただけたら良い。

(委員)

連節バスの導入は京都府下では初めての事例となるため、実現したい気持ちはある。

お願いになるが、祝園駅のロータリーの物理的な問題と定時性が大きな課題となっているが、ロータリーだけでなく、道路の渋滞解消、PTPS、専用優先レーンもあわせて考えてほしい。奈良県の学園前駅ではロータリーだけでなく、一般道も時間制限で規制している。精華町内とは交通量等も違うが、一番の理想だとは思っているので参考にお願いしたい。

(会長)

サービス水準が高いと路線バスの利用者も増えると思う。全部実現するのは難しいと思うが、公共交通への利用転換のため、引き続き検討をお願いしたい。

概要版(資料②)の目指すべき地域の交通体系で、各矢印はもっと他にも波及すると思う。各事業が色々な課題を解決するためにあるように見える方が良い。

(委員)

中長期と短期で事業は分けられているが、住民から見ると、地域公共交通会議で地域のコミバスも並行して考えていかないといけないと思っている。

高機能バスステーションやバス停はどれくらいのを考えているのか。その違いによってコミバスの再編にも関わってくる。

(事務局)

高機能バスステーションやバス停は、屋根がついてベンチがあって、バスロケーションシステムがあるものと想定している。本来高機能というのであればカーシェアリングや駐輪場、コミバスとの乗り換え機能もあるべきだと思うが、今回の計画でまず取り組むのは基幹の公共交通で、今後はそれに必要な結節点の機能なども考えていければと思う。

(会長)

バス停は公共交通に乗ってもらうのに重要な施設であるので、しっかり議論して実現してほしい。

3. その他(事務局)

○今後のスケジュールについて(資料③)

- ・次回の協議会は2月19日(金)午前で調整中。

4. 閉会